

着任挨拶

伊藤香純

プロジェクト開発研究領域 准教授

2008年4月1日付で、プロジェクト開発研究領域の准教授に着任いたしました。これまで、主にアジア諸国において、JICA、民間企業、NGOなどの異なる立場から国際協力業務に従事し、開発途上国における持続可能な森林資源管理を導くための方策について、様々な視点から研究と業務に取り組んできました。これまでの経験を、センターでの業務はもちろんのこと、授業や研修などを通じて日本の大学ならびに開発途上国の大学における人材育成に役立てていきたいと考えています。



略歴 1974年生れ。米国ユタ大学地理学部を卒業。桜美林大学大学院国際学研究所修士課程（国際学修士）、名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程（後期課程）にて博士号（農学）を取得。2004年度以降、財）国際開発高等教育機構（FASID）、JICAカンボジア事務所、JICA派遣専門家（カンボジア国森林分野人材育成計画Ⅱ）、インテムコンサルティング（株）（カンボジア国淡水養殖普及計画へのJICA短期専門家派遣）での業務を通じ、国際協力の現場での実務を積み、2007年9月よりICCAE研究機関研究員をへて2008年4月より現職。

櫻井武司

和光大学経済学部 教授

客員教授（2008年4月2日～2009年3月31日）

本年4月より1年間、客員教授を務めます。専門は農業経済学・開発経済学です。長年にわたりサブサハラ・アフリカの様々な地域で農家調査を実施し、農業技術の採用や農業分野への投資を農家が決定する要因について実証的な研究を行ってきました。その経験を生かし、農国センターでは、サブサハラ・アフリカを対象とする総合的な（すなわち、自然科学と社会科学の様々な分野を含む）研究プロジェクトを企画立案する予定です。よろしくお願ひいたします。

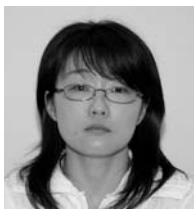


略歴 1960年8月東京生れ。1985年3月に東京大学理学系研究科で修士号（動物学専攻）を取得後、出版社勤務を経て、米国ミンガン州立大学大学院に留学。農業経済学でPh.D.を取得し、1995年10月から2008年3月まで農林水産省農林水産政策研究所に主任研究官として勤務。1999年から2004年まで国際農林水産業研究センターに出向し、コートジボワールの西アフリカ稲作開発協会に長期派遣される。2008年4月より現職。

山根裕子

協力ネットワーク開発研究領域 研究機関研究員

本年5月1日より、協力ネットワーク開発研究領域の研究機関研究員として採用されました。稲作などの日本の優れた農業技術を発展途上国の農業の現場へいかに適切に移転し、地域の農民の生活の向上を図っていただけるのに関心を持っており、研究活動を通じて、その実現に向けての方法論を模索したいと考えています。



略歴 1970年12月鳥取県生れ、東北大学農学部、同大学大学院博士前期課程修了後、博士後期課程は京都大学大学院農学研究科に編入学し、タンザニアに渡航した。地域研究の現地調査を元に山地農業の実態と変容を明らかにした論文で2005年博士号（農学）を取得。京都大学研修員を経て、2008年5月より現職。

山本宗立

プロジェクト開発研究領域 研究機関研究員

2008年4月21日付けでプロジェクト開発研究領域の研究機関研究員として採用されました。これまで東南アジア・東アジアにおけるキダチトウガラシの分布・伝播・栽培化過程を調べてきました。現地調査の経験を生かし、今後はカンボジアの農村加工業振興に関する研究に従事したいと思います。



略歴 1980年生れ。京都大学農学部卒業後、同大学院博士前期課程、博士後期過程に進学。2008年博士号（農学）を取得。専門分野は民族植物学・熱帯農業生態学・栽培植物起源学。大阪産業大学人間環境学部非常勤講師。

離任挨拶

杉本充邦

プロジェクト開発研究領域 准教授
（2006年3月16日～2008年3月31日）

2008年3月31日まで2年間、農学系大学と国際協力機関との連携システムの確立を目的に勤務し、その一助として、2007年10月にオープンフォーラム「大学と国際協力機関の組織連携の強化—大学国際化戦略の一環として—」を企画開催し、「農学国際協力」第9号を編集したのが思い出です。今後とも、ICCAEのサポーターとして応援させていただきます。



時田邦浩

国際協力機構 国際協力専門員 客員教授
（2007年4月2日～2008年3月31日）

「国際開発における大学と国際協力機関との連携」という研究テーマをいただいて、国際協力機構（JICA）へのプロポーザル提出という事例にも関係でき、大学と国際協力機関とで関心や考え方の大きな差を実感しました。事務手続きの煩雑さや経理処理の違いなど改善すべき点があり、これらの問題解決に取り組みたいです。



外国人客員研究員

ケニアの高原地帯に適応する耐冷性イネ品種選抜のための研究

フンジャ・ムラゲ ジョモ・ケニヤッタ農工大学園芸学科講師
ICCAE客員研究員（2008年5月7日～11月5日）

私はICCAE客員研究員として招へいされ、ネリカの耐冷性に関する品種間差異とケニアの高原地帯に適した耐冷性イネ品種選抜に関する研究を実施しています。ケニアの高原地帯では、雨期の後期（5月～7月）の低温による不稔粉発生が稲作振興の制限要因となっています。実験の実施に当たっては、愛知県農業総合試験場山間農業研究所、名古屋大学フィールド教育研究支援センター東郷フィールド（旧・付属農場）および生命農学研究科から多大なるご支援を頂いています。山内章教授、浅沼修一教授および横原大悟准教授の協力の下、耐冷性の強いイネを同定するための技術を身につけ、ケニアで活用したいと考えています。



略歴 1960年ケニア生れ。1984年、ナイロビ大学理学部卒業後、ジョモ・ケニヤッタ農工専門学校（現・ジョモ・ケニヤッタ農工大学）助講師として勤務。1989年、岡山大学大学院農学研究科修士課程を修了。1994年、ドイツ・ハノーバー大学客員研究員、2005、2007年、英国・ノッティンガム大学客員研究員を務める。現在、ジョモ・ケニヤッタ農工大学講師として勤務する傍ら、博士号取得のための研究に取り組んでいる。